当時はペコちゃんの空き缶に裁縫用具を入れることが流行っていて、私を含めクラスのほとんどの友人がペコちゃんの空き缶をかかえて被服教室に移動していました。今も娘が技術検定の準備等でよく放課後も残っていますが、私も友人と放課後に居残りをしてジャケットスーツやシャツ・ブラウスを縫っていました。食物の技術検定ではきゅうりの輪切りテストやお弁当作りなどの頑張っていました。当時はつらかったことも今となっては懐かしい思い出です。

南高祭では家政科がバザーでぜんざいをすることが恒例となっており、みんなで頑張ってぜんざいを販売したり、コスチュームショーに参加したりしました。

今年は娘が南高祭のコスチュームショーに向けてドレス作りに頑張っているので、ぜひ見に行きたいとお思っています。

修学旅行ではディズニーランドに行きました。初めて行く場所に本当にワクワクしながら参加したものです。当時はデジカメもスマホもありませんでしたが、フイルムで撮った友達との写真は今でも私の宝物です、

私の家族は私を含め、主人、主人の父、娘の4人が南高の卒業生です。娘から聞く今の南高の話は私を自分たちの学生時代に引き戻してくれ、暖かい気持ちにしてくれます。

これからも南高がますます発展されますよう、家族全員で祈っております。

「あの頃は…」

平成14年3月
農業土木科卒業
諏訪　卓弘

私は、平成十四年の三月に南高の農業土木科を卒業しました。そして、今は保育園で保育士として働いています。

農業土木科から保育士というのは、少し珍しいかもしれません。保育士という仕事を考え始めたのは、南高校での三年間が原点でした。

当時の自分は、子どもに関わる仕事をしてみたいという考えを持っていました。しかし、農業土木科での高校生活を楽しむうち、その思いは、心の隅にしまっていました。その思いが再び蘇ってきたのは進路を決める高校三年生の夏です。当時は、南高の試験が近付くと友だちに試験内容や問題の解き方を教えていたことがありました。その時、相手にうまく伝えることの難しさや無事に試験が終わり、友だち試験を終えた時の達成感を経験することができました。このような経験を繰り返すうち、私の中では、大きな充実感がありました。そして、以前から抱いていた子どもたちと関わることができる仕事がしてみたいという考えが心の中にあったのです。

しかし、私自身は迷っていました。農業土木科の知識を活かして理系の大学に進むのか教育や保育の大学に進むのか決められずにいたのです。そんな時友達から「諏訪が勉強教えてくれた時、すごく一生懸命で良かったから、先生っていうのもいいじゃない。」と言ってくれました。また、担任の先生からも「自分の進みたい道を進めばいいんだ。」というアドバイスをいただき、私の心から迷いは無くなったのです。

その後紆余曲折ありましたが、今年の四月から夢であった保育士になることができました。まだまだ右も左も分からない一年目ですが、大切にしていきたいことがあります。それは子どもの感動や喜び、悲しみや悔しさをともに感じることができる保育士になりたいということです。そのためにも日々の努力を忘れずに子どもたちとともに成長していきたいと思います。

「3年間の思い出」

平成25年3月
福祉科卒業
信長　沙綾

私は福祉科の一期生として卒業し、現在は老人福祉施設で働いています。福祉科での3年間で特に思い出に残っているのは専門教科（福祉）の授業や介護実習です。

実習では様々な所でお世話になりました。最初の頃は実習が嫌で早く終わって欲しいと思っていたのですが実習最終日になると名残り惜しく感じました。そのうち実習の回数を重ねるごとに、こんな仕事もいいなと思うようになりました。

また現場で働くには介護福祉士の国家資格が必要であり、私達福祉科三十人は最後の2ヶ月間は特に必死になって勉強をしました。それまで休み時間は教室で騒いでいたのに、その2ヶ月間は休み時間も参考書を読んだり、問題を出し合ったりしました。そのかいがあり、見事全員が国家試験に合格しました。私も一人では絶対に乗り越えられない壁だったと思います。クラスの友達がいたからこそだととても感謝しています私が落ち込んだときにも周りの友人たちが慰め、励ましてくれました。何も言っていないのにみんなは察して声を掛けてくれるみんなはなんて優しいのだろうと涙が出ました。同じ福祉科一期生、実習を乗り越え、課題に追われながらも頑張ってきた仲間だからこそ通じ合うものがあったのだと思います。3年間楽しいことよりも苦しいことの方が多かったような気もしますが、その苦難が私たちを強くし、より絆を深めてくれたのだと思います。

現在の仕事ももちろん大変ですが、高校の夏休みの課題や国家試験の前の2ヶ月間に比べたらどうってことないなと思えてきます、あれだけのことができたのだから、これからだって頑張っていけると思えるのです。南高福祉科での3年間は私の将来を大きく左右する分岐点であるとともに私の基礎を作ってくれた大切な時間でした。そして大学に通っていない私にとっては高校の仲間が、思い出が人生最大の宝になりそうです。

私のいる職場は人の命を預かっているため、自分のちょっとしたミスが大きな事故に繋がりかねません。責任重大です。自分はどこまでできるのか、自分ひとりで何ができて何ができないのか、自分自身をよく知ることで多職種との連携をはかり事故に繋がらないように慎重に仕事をしています。臆病な私ですが、そんな私に南高福祉科は介護の専門職としての自信をつけてくれました。仕事に行くたびに南高の福祉科に通っていて本当に良かったと実感しています。